



一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構（GIAPSA）
2021 年度事業報告

（期間：2021 年 4 月 1 日—2022 年 3 月 31 日）

目次

	頁
1. 2021年度の活動の概要と収支報告	3
2. 2021 年度に実施した事業の詳細	
2.1. タイ北部メエーチャンタイ村における村民の自助努力 によるコーヒーを中心とした農業生産組合支援事業	4-6
2.2. カンボジア北部における自活の為の小規模農民グル ープ支援事業	6
2.3. バングラデツシュでの活動	6
2.4. タイ南部のサゴヤシ林の保全と有効利用支援事業	7
2.5. その他の活動	7
3. 法人の組織や管理運営能力の強化に対する取り組み	8
4. 法人の財政や資金に関する報告	8
ANNEX 1 Annual Report 2021 by Mae Chan Tai Village	9-11
ANNEX 2 LoA between GIAPSA and Yadhon on Sago	12-13
ANNEX 3 LoA between GIAPSA and AATSEA on Int. Conference	14-18

1. 2021年度の活動の概要と収支報告

2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の活動は、基本的には2020年度から継続する優先事業とその他の活動を中心に行う予定であったが、タイやカンボジア、バングラデッシュを含むアジア地域での新型コロナウイルスの蔓延により事業地域への渡航や、活動地域内での人の集まりや資機材の購入・配分などの基本的な活動に大きな制約を受けた。こうした実情を踏まえ、2021年度は無理のない範囲で流動性を持った活動計画を立てそれを実行した。2021年度の前半は、カンボジアにおける国際協力機構（JICA）の草の根型支援事業への応募の為の事業案の作成（2021年11月に出席）、遠隔によるタイ北部メーチャンタイ村でのコーヒー生産や加工・販売支援事業のモニターやメーチャンタイコーヒーのブランド化や販売促進の支援を中心に活動が実施された。当法人は、2021年11月に東南アジア農業技術協会（AATSA）が主催した第9回持続可能な科学技術統合国際会議の共同主催団体となり、当法人の代表理事はその国際会議の座長としての役割を果たした。新型コロナウイルスの蔓延が下火になった2022年1月にはタイ北部のメーチャンタイ村へ事業の進行状況の検証、村民に対するアドバイスと同村で行われた事業運営委員会の年次会議出席の為に出張した。3月にはタイ南部トラン県における農民レベルでのサゴヤシの保護と有効利用の為の事業計画を作成し、3月末に現地NGOのヤドホン財団との事業協力合意書の調印を行った。

結論としては、新型コロナウイルス蔓延の影響で2021年度は事業の実施に大きな制約を強いられたが、同時に、2022年度の当法人の活動の拡大に向けた準備期間として重要な年であった。又、国際会議の共同主催団体として、当法人の国際レベルでの活動と認知度を高めることが出来たことは、国際NGOの一つとして世界に貢献する第一歩となった。

2021年度の法人の収支報告は別途行うが、収支の概要と実際の現地での事業活動費の概算と配分は以下の通りであった。

予算総額	2,135,105 円	（前年度からの繰越金 233,615 円を含む）	
支出総額	1,209,900 円	（前渡金及び立替金を含む）	
そのうち海外へ送金分	882,500 円		
（＝タイバーツ換算	249,900	バーツ	
・ そのうちタイ北部コーヒー事業支出	152,196	バーツ	（61%）
・ カンボジア農民支援事業支出	0		（0%）
・ タイ南部サゴヤシ事業支出	43,000	バーツ	（17%）
・ バングラディッシュへの支援	0		（0%）
・ 他の事業費（国際会議共催）	20,000	バーツ	（ 8%）
・ 現地共通事務経費	35,123	バーツ	（14%）

2. 2021年度に実施した事業の詳細

2.1. タイ、チェンライ県メーチャンタイ村における持続可能な村民達の自助努力支援事業

この事業はアカ族の村の青年たちが中心に自主的に設立されたメーチャンタイ村農業生産者組合のコーヒーの共同加工とメーチャンタイコーヒーのブランド化を中心とする村おこし運動を支援するもので、自然環境に調和した栽培や加工技術の改善によりコーヒーなどの農産物の質と市場価値を高め、村民の収入と若者を中心とした雇用促進、そして生活レベルの改善を図るものである。この事業の2年目に当たる2020年にはコーヒー豆脱穀機や焙煎機の購入費を主体として約300万円の新規拠出がなされ、3年目の2021年には約53万円相当の支援がコーヒーに関する技術訓練、有機肥料の作成、コーヒーの販売促進等の支援の為に追加された（GIAPSAからの拠出総額は3年間で約580万円に至った）。その結果、農産物加工場にてコーヒー豆の脱穀、焙煎と包装・出荷が可能になった。又、脱穀や焙煎機械を使用する手数料を農民達からサービス料として徴収し、それらを原資として村の共同基金が設立され、村の公共事業や社会福祉事業に使用された。2021年度の具体的な活動は以下であった。

- 村人全員に対して（計39戸）、脱穀後に発生するコーヒー豆の殻を有効利用した堆肥の作成技術を広めコーヒーの有機栽培を促進する為、それに使用する有機肥料作成促進剤と東南アジア農業技術協会（AATSA）による技術指導を2021年6月から約3か月間提供した。この事業に対し皇室事業財団【Royal Project Foundation】から堆肥に混ぜる石灰の無料提供が為された。結果としては、有機肥料作成促進剤の利用技術習得が難しいことなどから、2022年度からはこの有機肥料作成促進剤を使用せずにコーヒー豆殻による堆肥を各農家単位で作成するという方針で事業の継続が為される。
- 2022年1月に事業運営委員会の2021-22年度年次会議がメーチャンタイ村で開催された。会議には郡役場の郡長、皇室事業財団の地域代表、IMPECT（タイ山岳民族連絡協議会）の文化教育部長（会議の座長）、メーチャンタイ村リーダー、アジア自立支援機構（GIAPSA）の代表理事等が運営委員会のメンバーとして出席した。この運営委員会では、メーチャンタイ村側から2021年度の年次活動統計資料を主体としたレポートとが提出され（レポートの詳細はAnnexとして本報告書に添付した）、それをベースに質疑応答がなされた。会議のハイライトは以下である。

*自活自援を目指したメーチャンタイ村の農業生産者組合は、順調に成果を上げ、その重要なインディケーターとなる村の共同基金が当初の予定どおり設立された。当法人から寄贈されたコーヒー豆の脱穀機やコーヒーの焙煎機を使用する手数料を農民達からサービス料として徴収し（年間の総収入は178,000バーツ、約65万円）、その中から共同機材の維持管理費用、オペレーターの給与、村の公共事業や社会福祉事業（道路の補修工事費用、山林火災の蔓延を防ぐ防火ベルトの新設費用、新型コロナウイルスのワクチン接種に対する補助費用、バンコクに開店したコーヒー店開店式典への村人の

旅費、など)を支出し、残りの約87,000バーツ(約32万円)が共同基金として貯蓄された。

*村はいまだに公共の電気が無く政府の配線工事は遅れているが、1-2年中に電気が供給される見通しがより確実になった。

*世界のコーヒー市場における価格の上昇は、生産農家の収入に好影響を及ぼした。2021年度生産シーズンのメーチャンタイ村のコーヒー豆の生産は果実重量で約400,000キロ、果肉を取り除き乾燥させたパーチメントコーヒーに換算した重量で約80,000キロ)で、気候変動や長雨の影響で平年より少し収穫が減少した。コーヒー果実の初期水洗処理設備の不足などの要因で、生産されたコーヒー果実の約20%は同村の共同加工場で加工されることなく、果実のまま仲買人に売られた。又、水洗・乾燥された後の豆(パーチメントコーヒー)のうち、約半分の50%がパーチメントコーヒーとしてそのまま仲買人やコーヒー加工業者に売られ、45%が村の共同加工場で脱穀機により殻を取り除かれ生豆として販売された。残りの5%が共同加工場で焙煎され、製品として販売された。

*上記のレポートから考察されたことは、将来、果実やパーチメントコーヒーとして仲買人に売られることなく、更に加工して付加価値を付ける事や寄贈された機材の有効利用を目指して、より多くの量のコーヒー豆が村の共同加工場で脱穀後に生豆に加工されること、そしてより多くの量の生豆が(僅か5%に留まることなく)共同加工場の焙煎機で焙煎され製品として市場に出荷されることが望ましい、という合意があった。其の為、生豆や焙煎されたコーヒーのブランド化による知名度の向上と販売ルート・国内外の市場の開拓が急務となり、今後の大きな課題として認識された。

*コーヒーの焙煎は村の農民達の中で訓練を受けた3-4名の若者が順番で行っているが、人により焙煎技術にばらつきが有り、製品として市場の高評価を受けるには、このばらつきを解消するために更なる焙煎技術の訓練の必要性がある。それに対する当法人への更なる支援の依頼があった。

*生豆に加工された後に、生豆のサイズを均一にして市場価値を高めるために、グレーダー(コーヒー豆の選別機)の必要性が指摘された。現在のところ、外部の業者にサービス料を払い豆の選別を委託しているが料金が低い。又、独自のグレーダーを持てれば村の利用者からサービス料を徴収し、その収入を村の共同基金として蓄財出来る利点がある。こうした理由により、その機材購入(約70-80万円)の依頼が当法人にあった。当法人の2022年度の予算で購入可能かどうか、考慮するという事で合意した。

*日本や他国へのコーヒー豆の輸出を念頭に入れた販売ルートの開拓の必要性が話し合われた。これに対して、当法人が2020-21年度に行った日本の関係団体へのコーヒ

一生涯豆のサンプルの提供やメーチャントコーヒーの紹介・啓蒙活動などの報告を行った。2022年度はこうした努力が実を結び、日本でのメーチャントコーヒーの販売が促進されることを期待された。

- メーチャントコーヒーのロゴ入りのT-シャツ50枚を作成し、2022年3月に村の農家全員に配布した。このT-シャツは村の行事や村民のグループ活動に使用されることを念頭に作成され、村民の連帯を深める事やメーチャントコーヒーのブランド化に向けた宣伝や啓蒙活動に寄与することが期待されている。
- 2021年12月から2022年3月にかけて、コーヒーの焙煎技術（中級及び上級）とコーヒーの醸造技術向上の為にグループトレーニングを専門技術者の指導の下で実施した。

2.2. カンボジア北部（シナムリープの北）の貧しい村の農民たちの自発と自助努力による農業生産グループの形成と運営に対する援助と収入増加・貧困解消の為に支援事業

- カンボジアに全国ネットワークを持つFNNの協力で、カンボジア・シナムリープ県、バンテアイスレイ郡などの（アンコールワットの北東へ100キロほどの地域）の貧しい農民達が団結して形成された農業協同組合の自活・持続可能な発展に向けた取り組みを支援する事業の作成に2020年度に着手した。具体的には養鶏農家互助グループに対して養鶏や鶏卵生産資機材を有償・無利息で提供し、返済された資金を組合の回転基金として再利用して将来他の受益者たちに支援の輪が広がることを目的とする事業案である。この事業案は国際協力機構（JICA）の2021年度の草の根型支援事業案として公募に応募する形で提出されたが、当法人の活動実績が必要条件とされる3年に満たなかったことなどの理由で採用に至らなかった。
- その後、JICAつくば事務所のアドバイスや支援により、事業案に修正と改良を加え、2021年11月に再度、草の根型支援事業（総額1000万円）に応募した。2022年4月1日にJICAからこの事業案の採択の通知があった。実際の事業開始時期は2022年11月頃になる見込みだが、事前調整や準備の為に、2022年6月に現地を訪問する予定である。

2.3. バングラデッシュでの活動（小規模農民グループ支援）

一般社団法人シェア・ザ・プラネットの事業に対する技術支援を予定していたが、新型コロナウイルスの蔓延により、2022年度に延期になった。

2.4. タイ南部のサゴヤシ林の保全と有効利用支援事業

世界的な食料不足や食料価格の高騰が懸念されている中、湿地や泥炭地で生育し、他の作物と農地の使用の競合が少ない澱粉資源のサゴヤシが注目されている。サゴヤシは赤道を挟んで北緯・南緯 10 度以内の東南アジア・オセアニア地域に自生し、成長した木の幹から乾物で 100-150 キロほどの澱粉が取れるヤシの木で、未利用や条件の悪い湿地等で生育し、澱粉の収量も大き為、将来の食料難に備えた未活用食料資源としてその有効利用が模索されている。近年までタイ南部の農耕に適さない湿地帯にはサゴヤシ林が多く存在し、サゴヤシは地域の小規模農民達のデンプン採取による食用利用、葉を屋根材として売ることによる農民の収入の確保、地域の環境保全や植物多様性の保持、伝統的な地域文化の維持などに貢献してきたが、近年、油ヤシや天然ゴム栽培の急速な拡大に影響されて数を急速に減らし、タイ南部では絶滅の危機に立たされている。こうした現状を打開するために、当法人は以前から支援を提供していたトラン県の環境 NGO の草分けであるヤドホン財団に研究委託をし、同県内の選抜された農家に対してサゴヤシの苗木と農民達に対する技術指導を提供し、農地でサゴヤシを栽培するパイロット事業を開始することで合意した（合意書の詳細は Annex 2 として添付した）。実際の活動は 2022 年 6 月から始まり、同年 12 月に完了する予定である。

2.5. その他の活動

- 当法人はタイの首都バンコクで 2021 年 11 月に開催された第 9 回持続可能な科学技術 国際会議（約 20 か国が参加）の共同主催団体として国際会議の企画運営に参加し、同法人の代表理事はその国際会議の座長を務め、基調講演を行った(Annex 3)。
- 当法人は 2021 年 4 月より 2022 年 3 月までの間、間接的ではあるが、メーチャンタイコーヒーの販売やブランド化促進の為、メーチャンタイ村が主体となりバンコクに開店したアカメーチャンタイコーヒーショップの支援やアドバイスを提供した。当初、新型コロナウイルスの影響で在宅勤務が続き訪問する客の数は通常の 30% 程度に激減したが、2021 年 11 月頃から客の数が増え 2022 年 3 月には通常の 80% ぐらいまで回復した。
- 2021 年 4 月より 2022 年 3 月の間、GIAPSA の代表理事は新聞（新潟日報）の社説のコラムニストとして毎月、貧困、飢餓、格差、環境等のグローバル課題等について執筆した（この仕事は 2022 年 3 月で終了した）。

3. 法人の管理能力強化に対する取り組み

茨城県つくば市にある当法人の本部に加えて、タイ王国バンコク市にアジア拠点が開設され、途上国の現場に根差した活動を可能にした。2021年4月より現地での活動経費を節約する目的と、コロナ禍での2021年度の海外における法人の活動の縮小を予測して、このアジア拠点事務所をバンコクの中心地域にある代表理事個人の自宅に移した。

2019年度より当法人の会計や税務処理、及び会計上のアドバイスを坂本税理士に依頼したが、2021年度も継続して引き受けていただき、会計や税務管理能力の向上を可能にした。

2021年の間（2022年度も継続）、以下の方々に当法人の理事及び非常任理事として貴重なご意見やアドバイスを頂いた。

常任理事

野口良造 筑波大学准教授 筑波大学院生命環境科学研究科

筒井哲朗 代表理事 一般社団法人シェア・ザ・プラネット

(元シャプラニール=市民による海外協力の会事務局長)

非常任理事

加藤久和 明治大学政治経済学部教授

八丁信正 近畿大学農学部教授

田島淳史 筑波大学生命環境系教授

4. 法人の財政や資金に関する報告

2021年度の活動資金は法人関係者からの年会費や寄付、前年度からの繰越金等により確保した。この会計年度の寄付金の合計は2,860,000円であった。

- ・ 寄付 2,000,000円 (コヌマヒロユキ)
- ・ 寄付 500,000円 (コヌマヨウジロウ様)
- ・ 寄付 350,000円 (コヌマタクヤ様)
- ・ 寄付 10,000円 (イイノヨウコ様)

社員年会費の合計は40,000円であった。詳細は別途会計報告参照。

Annual Report of Year 2021

Pilot project for community-based sustainable self-help livelihood development of mountain villages
in Thailand

submitted by Mae Chan Tai Community Enterprise (MCT-CE)

(Submitted to the Executive Director of GIAPSA and the Board of GIAPSA Trustees)

This summarized report is written and submitted by Mr.Santikul Juepa, the leader of MCT-CE . They have prepared the report based on GIAPSA` s guiding questions with an aim to assess the status of coffee production and processing of the MCT village and to determine the effective use of coffee processing machines donated by GIAPSA (such as mechanical coffee beans grinder/hulling machine and roasting machine) including the progress of the establishment and utilization of the Community Revolving Funds (which is considered as an important milestone towards promoting community- based self -help initiative) . Details are as follows;

- 1) Production of coffee beans (either fruit or parchment coffee) during the 2020/21 production season(November 2020-April 2021)? And how many % of them were sold as a form of fruit, how many % of them were sold as parchment coffee beans, and

how many % of them were sold as green beans?

Answer: During the 2020/2021 production season, MCT village farmers produced and collected the total coffee beans of approximately 400,000 kg in a form of cherry fruits (or 80,000 kg -100,000 kg in a form of parchment coffee beans *). The MCT community farmers sold about 20% of them as cherry fruits and remaining 80% was sold after processed at the village (50% of them were sold as parchment coffee beans, 45% as green beans, and remaining 5 % were sold as roasted coffee beans and others)

(* normally 5 kg of cherry fruit makes 1 kg of parchment coffee beans)

- 2) Estimated coffee beans production during 2021/22 production season?

Answer: estimated total production of coffee beans during the 2021/2022 production season is 550,000 kg in the form of cherry fruits, out of which 100,000 kg would be processed as parchment coffee beans, and 60,000 kg for green beans.

- 3) In 2020/2021 season, how many tons (or kg) of parchment coffee beans were processed (to make green beans) by hulling machine donated by GIAPSA?

Answer: In 2020/2021 season, there were totally 51,000 kg of parchment coffee beans that were processed (to make green beans) by hulling machine donated by GIAPSA and

generated community net income (by charging service fee from users at a rate of 3 baht/1kg of green beans) of 115,000 baht after operation costs and salaries for operators were deducted which was deposited in its community revolving funds account.

- 4) How many % of hulled beans produced by the hulling machine were from the villagers of Mae Chan Tai village, and how many % of them were from other villages?

Answer: The total 100% of hulled beans were from MCT community, only. There were not from the other village.

- 5) how much income (Thai baht) was generated from users as a service charge of the use of hulling machine during 2020/21 season, and how much is estimated for 2021/22 season?

Answer: Villagers got 51,000 kg of parchment coffee beans in 2020/2021 and they were processed by hulling machine to make green beans. The income was generated from users as a service charge of the use of hulling machine with a net income of 115,000 THB, after deducting operation costs and salaries for operators. For 2021/2022 season, it's estimated that 60,000 kg of green beans would be produced by the hulling machine and might generate 180,000 baht of total income (3 baht/1kg x 60,000 kg) and about 130,000 baht of net income, after deducting operation cost and salaries of operators.

- 6) Out of the total income generated from the grinding machine in 2020/21 season, how much was spent for operation and maintenance of the machine? How much was used for community social welfare purposes? And how much was kept as the capital savings.

Answer: The balance of community funds generated from the operation of hulling machine at the end of 2020/21 season was 57,000 baht. The details of total expenditures and income of the community funds for year 2020/2021 were below.

- Operation and maintenance cost as at 30/11/21 (excluding salary for operator paid in December 2021 which should be considered as a part of 2021/22 season) = 58,000 THB.
- Travel costs for opening a MCT coffee shop at Bangkok = 18,000 THB.
- Spent for public benefits at MCT community = 3,000 THB.
- Contributed for making community forest-fire protection line = 7,000 THB.

Total expenditures in year 2020/2021 = 86,000 THB.

➤ Income (user fee) from hulling machine 51,000 kg x 0.8 #
 x 3 baht/1 kg =122,400 THB

(# conversion rate of weight 1 kg of parchment coffee =0.8 kg of green beans)

➤ Other incomes (to be clarified) = 20,600 THB
 Total income (122,400 + 20,600 THB) * = 143,000 THB.*

(* these figures require further assessment/validation)

The total balance of income at the end of 2020/21 season = 57,000 THB
 (143,000-86,000) which was kept as community revolving funds

7) For roasting machine, how many tons (or kg) of green beans were roasted during 2020/21 season? Out of these roasted beans, how many tons (kg) were for villagers? How many tons (kg) were for Akha Mae Chan Tai Coffee Shop in Bangkok? And how many tons/kg were for others?

Answer: There were 1,201 kg of green beans that were roasted during 2020/2021. Out of which, 1,046 kg were for MCT village farmers (10 farmers participated) , 215 kg were for Akha Mae Chan Tai coffee shop (in Bangkok), and none for others.

8) How much income was generated from users as a service charge for roasting coffee beans during 2020/21 season?

Answer: Roasting service fee at a rate of 50 baht/ 1kg of green beans was charged. There were totally 63,050 THB (50 baht x 1,262 kg of green beans) was generated from users.

9) During 2020/21 season, How much of this generated income was used for operation and maintenance of the roasting machine, and how much was used for community welfare purpose? And how much was kept as a capital savings?

Answer: Out of 63,050 baht generated as income (roasting charge paid by users), 8,273 baht was used for operation and maintenance of the roasting machine, 21,600 baht was used for the payment of salary for operators, 2,700 baht was for miscellaneous expenses, and remaining balance of 30,477 baht was kept as capital saving /community revolving funds of MCT community.

.....

ANNEX 2

31 March 2022

Letter of Agreement

Between

General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)
and Yadhon Foundation, Trang Province, Thailand

for the implementation of

The Project Title “Community based sago palm conservation and development in Trang Province in Thailand”.

This letter of agreement (LoA) between Japan-based NPO GIAPSA and Yadhon Foundation, Trang Province in Thailand outlines an agreement by the two parties to collaborate each other in implementing above named project for the duration of 7 months (June 2022-December 2022). Yadhon Foundation has agreed to provide technical expertise and associated inputs, while GIAPSA has agreed to contribute a total budget of 43,000 baht to support Yadhon Foundation for the project implementation. The detailed background, objectives and estimated budget are as follows:

1. Objectives

- A) To encourage the local people to plant Sago Palm on their private land in Nakaosia and Koksaba villages
- B) To initiate the demonstration project in 3 villages where 100 Sago Palms will be planted from June to December 2022.
- C) To study the outcome of the project by group evaluation after the end of the project

2. Background

Nayong district of Trang province is well recognized as a wealthy Sago Forest and the local people have good knowledge in utilization of Sago Palm. Local food and dessert made from Sago starch are popular local food, while Sago leaf and Sago bark are used for

building houses and animal shelters. Moreover, the soft part in the stem of Sago palm after being extracted for starch is used for Sago Worm farming. The Sago ecosystem here is rich in terms of biodiversity both animals and plants. And, Sago palm is one of income sources for the local people as well as their food security.

However, in this area, Sago Forest have been destroyed rapidly in recent past and replaced by profit oriented industrial crop plantations such as para rubber and oil palm plantations without attention to the importance of environmental conservation and biodiversity, while the demand for Sago starch and its consumption have also been increased. Additionally, Sago palm has been logged and sold in large quantity and generating a good farmers income . This project is therefore initiated to increase the number of Sago palm in private farm land in this area with an aim to conserve environment and biodiversity as well as to enhance household incomes of rural farming community.

3. Timeline (June - December 2022)

- 3.1) June 2022; selection of participants and workshop provision
- 3.2) June-November 2022; preparation for young Sago shoots and planting activity
- 3.3) December 2022; workshop and evaluation

4. Budget

- 4.1) cost for 100 young Sago shoots @ 100 baht per 1 shoot, which is 10,000 baht in total
- 4.2) planting and nursing to ensure of the young sago shoots' survival @ 100 bath per 1 shoot, which is 10,000 baht in total
- 4.3) organizing 2 workshops @ 2,000 baht per 1 workshop, which is 4,000 baht
- 4.4) final evaluation of the project and local seminar for future plan @ 3,000 baht
- 4.5) cost for an expert to oversee the project
- payment for 8 trips @ 1,000 baht per 1 trip, which is 8,000 baht in total
- fuel cost for 8 trips@ 1,000 baht per 1 trip, which is 8,000 baht in total

Total budget 43,000 baht

ANNEX 3



Memorandum of Agreement Cooperation between Association of Agricultural Technology in Southeast Asia (AATSEA), Thailand and General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA), a Japanese non-profit making organization.

This memorandum of cooperation (herein after referred to as "Memorandum") is made and entered into and executed on I June 2021.

With the objective of strengthening their mutual cooperation, Association of Agricultural Technology in Southeast Asia (AATSEA), Thailand and General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA), (hereinafter referred to respectively as a party and collectively as parties to this Memorandum) have concluded the following:

- I The collaboration between the parties shall be undertaken with the objective of promoting academic and research ties as well as promoting joint collaboration towards attainment of SDGs between the parties. Such collaboration shall include educational and training activities in the disciplines of natural sciences and related areas, and action oriented field research aiming for achieving sustainable development.
2. The parties agree that subject to the terms that are to be further considered and agreed upon their collaboration will include but not be limited to the following areas:
 - i. Mutual exchange of experiences to promote organic agriculture.
 - ii. Mutual exchange of staff for training in organic agriculture.
 - iii. Collaborative activity to certify organic agriculture.
 - iv. Collaborative academic programs for graduate scholarship namely, GIAPSA AATSEA Scholarship in organic agriculture; to the poor or

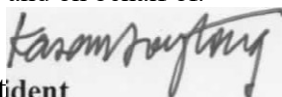
interesting people at postgraduate levels.

Joint field research on the promotion of organic agriculture.

collaboration on the AATSEA organized International Conference(s) on the Integration of Science and Technology for Sustainable Development which includes participation of GIAPSA as one of co-funding organizations (with budgetary contribution of 20,000 baht) and act as the chair of the International Organizing Committee and /or a keynote speaker at the conference.

3. The term of the specific areas of collaboration stated herein above shall be further considered and agreed upon in writing by the parties prior to the initiation of any particular activity.
4. The parties agree that this Memorandum shall not be a legally binding agreement giving raise to any legal relationship, rights, duties or consequences, but is only a definite expression and record of the purpose of the parties are bound in honor only.
5. This memorandum may be amended by the mutual agreement of both parties.
6. This memorandum shall remain in effect for a period of three (3) years from the mutual written agreement of both parties and will be extended automatically unless otherwise expressed contrary by either party. The memorandum can be terminated at any time by either party upon provision of six (6) months written notice to the other party.
7. This memorandum has done in two original copies and be written in English.

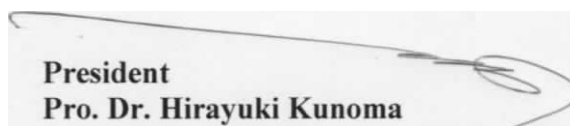
Signed for and on behalf of:



President

Dr. Kasem Soyong, Pro. Dr. Hirayuki Kunoma
Association of Agricultural Technology in
Southeast Asia (AATSEA)

Date: 1 June 2021



President

Pro. Dr. Hirayuki Kunoma

General Incorporated Association for the
Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)

Date: 1 June 2021

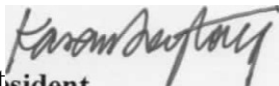
ADDENDUM A

Implementation of the promoting non-agrochemical production (NAP) transition period to organic certification program between Association of Agricultural Technology in Southeast Asia (AATSEA), Thailand and General Incorporated Association for the Promotion of Selfreliance in Asia (GIAPSA)

We undersigned agreement to work cooperatively to implement the farmers in Mae Chan Tai Coffee growers contributing the social, economic and environment of the village community. The specifics regarding this program are as follows:

1. **Modes of Collaboration**
The program shall include training in organic fertilizer production and promoting the non-agrochemical production (NAP) transition period to organic certification.
2. **Coordination**
The program will be coordinated by the Association of Agricultural Technology in Southeast Asia (AATSEA), Thailand and General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)
3. **Number of training persons**
The number of program participants depends on negotiation from each other.
4. **Selection of training persons**
Each party will endeavor to publicize the opportunities under the program to its respective training persons.
5. **Responsibilities of the institutions**
AATSEA will offer transportation and accommodation for the training participants at AATSEA laboratory in Bangkok and AATSEA organic farm in Pechboon province.
6. **Miscellaneous**
 1. This addendum shall become effective from the date of signature by both parties and shall remain effective for three years (herein referred to as the "term"). Either party may, subject to the mutual written agreement of the other party, extend the term of this addendum by issuing a written request for such an extension at least three months prior to the event that term of this addendum.
 2. In the event that the memorandum of cooperation becomes null and void or terminated for any reason whatsoever, this addendum shall be automatically terminated.
 3. This addendum may be amended by mutual written agreement of both parties.
 4. This addendum is written in English.

Signed for and on behalf of:


President
Dr. Kasem Soyong,
Association of Agricultural Technology in
Southeast Asia (AATSEA)

Executive Director
Pro. Dr. Hirayuki Kunoma
General Incorporated Association for the
Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)

Date: 1 June 2021

Date: 1 June 2021

ADDENDUM B

Collaborative action research for the promotion of the use of coffee by-products (i.e. coffee husks) and coffee grounds (residues of grinded coffee beans after abstracting coffee essence during coffee drink making) for the production of bio-fertilizer/compost between Association of Agricultural Technology in Southeast Asia (AATSEA), Thailand and General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)

We undersigned agreement to work cooperatively to implement above named joint action research activities towards contributing to the social, economic and environment of the village community and beyond. The specifics regarding this program are as follows:

1. Modes of Collaboration

AATSA will provide 40 kg of KS-Bio-decomposer and 40 kg of Nutri-Food to GIAPSA at a subsidized price (estimated at a total budget of 27,300 baht) for onward distribution to 40 coffee growers in Mae Chan Tai Village for compost making from coffee husks. The program shall include the provision of technical advisory services from AATSA to the village farmers. AATSA will also provide technical advice to GIAPSA for compost making from coffee residues (coffee grounds) produced at Akha Mae Chan Tai Coffee Shop in Bangkok.

2. Coordination

The program will be coordinated by the Association of Agricultural Technology in Southeast Asia (AATSEA), Thailand and General Incorporated Association for the Promotion of Self-reliance in Asia (GIAPSA)

3. Number of beneficiaries

The number of primary beneficiaries will be 40 coffee farmers and their families, as well as those benefit from the compost produced coffee residues at coffee shop..

4. Contributions by other parties

Mae Chan Tai Village Community Enterprise (MCT-CE) will coordinate village level activities and will report the progress to GIAPSA and AATSEA periodically. Royal Project Foundation has agreed to donate free lime stones (required for the compost making) for the use by the 40 farmers). Akha Mae Chan Tai Coffee Shop (based in Sathorn, Bangkok) will fully collaborate in the research activities.

5. Time frame and Reporting

The programme will start from I June 2021 for the period of 6 months till 30 November 2021. MCT-CE will provide a periodic report in every 2 months describing the names of beneficiaries, progress made, difficulties encountered and other issues. GIAPSA, in consultation with AATSEA, will prepare a final report by the end of December 2021.

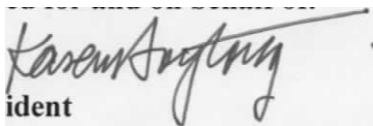
6. Miscellaneous

1. This addendum shall become effective from the date of signature by both parties and shall remain effective for three years (herein referred to as the "term"). Either party may, subject to the mutual written agreement of the other party, extend the term of this addendum by issuing a written request for such an extension at least three months prior to the event that term of this addendum.

2. In the event that the memorandum of cooperation becomes null and void or terminated for any reason whatsoever, this addendum shall be automatically terminated.
3. This addendum may be amended by mutual written agreement of both parties.
4. This addendum is written in English.

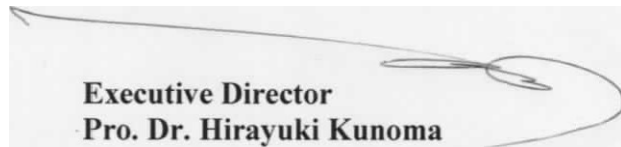
Signed for and on behalf of:

Dr. Kasem Soytung,
Association of Agricultural Technology in
Southeast Asia (AATSEA) Date: 1 June 2021



ident

Prof. Dr. Hiroyuki Konuma
Executive Director , GIAPSA
Date: 1 June 2021



Executive Director
Pro. Dr. Hirayuki Kunoma

